

	児童 質問	A+B(%)	保護者 質問	A+B(%)	項目	考 察	今後の取り組み
確 かな 学力	(9)	93.4	(7)	86	授業がよくわかる	児童と保護者の認識の差が昨年度よりも小さくなっている。	日常的にICT機器を活用し、わかる授業づくりに努める。オンラインドリルを活用し、習熟を図る。
	(3)	92.6			授業のはじめのめあて	授業の見通しがもてることで安心し、主体的に授業に取り組めるようになっている。	導入を工夫し、児童自らが「学びたい」と思うような単元の流れをつくる。ICTを使って、学び方やまどめ方を選択できるようにする。
	(8)	83.8			授業の振り返り		
	(6)	89			話し合い活動	友達の意見を聞いて、自分の考えを深める児童が増えてきている。	対話する前後に、自分で「考える」時間を持つことを意識させることを継続していく。ペア活動やグループ活動での話し合い活動の場面を増やしていく。
	(7)	86.8			タブレットを使って発表	タブレットを使って発表することが楽しくなったと答えた児童が増えている。積極的に意見を伝えることが難しい児童も、タブレットを使うことで、意見を伝えることができた。	タブレットを積極的に活用し、意見交換する場面をつくっていく。調べ学習や授業のまとめ、または自分の意見の理由としてなどの発表時にタブレットを使用していく。高学年は、学校行事等で実際にプレゼンを発表するなどしていく。
	(1)	83.8	(23)	81.4	学校での読書	朝の本の貸し出しや図書室の本を学級文庫として学級に置いている。タブレットによる電子書籍サービスを利用したことで、読書する児童が増えている。	図書室の本を学級文庫として貸し出すことを継続する。貸し出す学級文庫の本を自分たちで選ぶようにしたり、朝読書の時間にクラス単位で本を借りる日を作ったりして、本に親しむ機会を増やす。
	(2)	58.8	(1)	33.7	家庭での読書	児童の評価では家庭での読書は減っているが、保護者の評価では5%以上増えている。	「家読(うちどく)」の取り組みを継続し、保護者が一緒に読書に取り組む家庭を増やしていく。「ノーテレビ・ノーゲーム」の取り組みの期間に家で読んだ本の題名や読書時間を書く。
(12)	75.3	(9)	37.2	進んで学習	児童の肯定的回答が、昨年度より20%も増えているが、保護者の印象としては、進んで学習する習慣が身につけているとはとらえられていない。	自主学習のテーマを設定させたり、自主学習のメニューを紹介したりして、児童が自ら学ぶとする意欲づけを図る。タブレットの持ち帰りを進め、ラインズ(オンラインドリル)を有効活用する。	
豊 かな 心	(13)	91.9	(4)	68.6	進んであいさつ	年度当初と比べると、自分から進んであいさつできる児童が増えている。しかし、児童の振り返りと保護者の印象に大きな差がみられる。	校内では、どの子ども元気に挨拶することができている。学校全体で継続して声をかけ、よい挨拶ができたときには誉めていく。
	(14)	91.2	(17)	64	家族・地域の方へのあいさつ		
	(16)	94.9	(14)	95.3	友達に優しく 友達と仲良く	友達に優しくできる児童の割合が昨年よりも増えている。	ポジティブ教育に引き続き取り組み、自分の良いところ、友達のよいところを意識できるようにしていく。ソーシャルスキルを取り入れることによって、相手を大切に考えて行動できる態度を育てていく。
	(19)	92.6	(6)	97.7	学校は楽しい	「学校が楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」と肯定的に回答した児童の割合がどちらも9割を超え、昨年度よりも微増している。	引き続き、「魅力ある学校づくり」「ポジティブ教育」に取り組む。来年度も異学年交流を計画的に取り入れていく。学校行事だけでなく、授業の中でも、おもちゃランドや下級生への読み聞かせなどの異学年交流を続けていく。
				(24)	76.7	いじめのない学校・学級づくり	保護者の肯定的な回答の割合が昨年を下回っている。「わからない」と回答した割合12.8%あり、学校での取組を情報発信していく必要がある。
健 康 な 体	(22)	88.2	(13)	70.9	すすんで運動	マラソン大会やなわとび大会の前には、学習カードを使い、児童がめあてをもって運動に取り組むように意欲づけを行っている。	学習カードを継続し、児童への意欲付けを図る。体育の授業の中では、掲示物を工夫したり、動画で自分の姿を撮影したりして、取り組みやすい環境を整えることで運動に対する意欲を高めていく。
	(23)	92.6	(12)	75.6	家での歯磨き習慣	家で食後の歯磨きを丁寧にできていると回答した児童の割合が高い。保護者の肯定的な回答も昨年度と比べて10%も高くなっている。	保健だよりや親子での歯の染め出しによる保護者への啓発を継続していく。
	(25)	81.6	(11)	45.3	スマートルール	テレビ・ゲーム・ネットの利用のルールを守っていると回答した児童の割合はと比べると10%低下しており、大きな課題である。	SNSに関する指導を、長期の休み前に計画的に行ったり、保護者・家庭への啓蒙を継続していく。専門家による出前授業などを計画していく。クラスの中で、SNS利用についての話し合いの場を設け、自身で生活習慣を改善していく力を育てていく。
地 域 連 携	(26)	95.7			地域とかかわる学習(校外学習や体験)に楽しく取り組むことができた児童の割合が非常に高かった。150周年の記念事業を中心に、地域に対する愛着が育っていると考えられる。	150周年の記念事業では、保護者ボランティアの力添えも大きかった。コミセンとの出前授業では環境について学び、大関音頭の歌詞のキーワードづくりなど、地域について考え、関わる学習に取り組むことができたので、来年度もさらに工夫と改善を図りながら、地域との連携を深めた教育活動を行っていく。	
			(26)	93	情報の発信	保護者の肯定的な回答の割合は、今年度も9割を超えた。学校だより「大関のこども」やホームページ、学級だよりなどで学校や児童の様子をこまめに発信したことが評価されていると考える。	今後も、学校の教育活動の様子を保護者や地域の方々により深く知っていただけるよう、学校の取り組みや児童の様子をこまめに発信していく。